

2020年4月28日  
一般社団法人 日本心エコー図学会  
理事長 山本 一博  
教育委員会委員長 瀬尾 由広  
ガイドライン委員会および広報委員会委員長 泉 知里

## COVID-19 流行期における心エコー図検査に関する提言

COVID-19 感染の流行期において、密室性の高い空間で患者と密接した状態で行われる心エコー図検査は、医療従事者の感染および院内感染を拡散させる可能性があります。このため、心エコー図検査においては十分な対策をもって検査に望むことが重要です。

日本心エコー図学会は、各施設で診療ならびに感染予防にご尽力される皆様に、各施設を取り巻く感染状況に応じて、以下の様な対策を講じることを提言します。

### 1. 検査の適応およびスケジュールの見直し

- 安定した症例の定期的な検査、身体所見、BNP 値、および心電図検査などから重篤な弁膜症、虚血性心疾患、および心不全の疑いが少ない症例における検査など、不急の検査を延期または中止する。
- 経食道心エコー図検査は大量のウイルスのエアロゾル化を引き起こす高リスクな検査法である。このため、経食道心エコー図検査により治療方針を変更する可能性が低い場合や、別の画像診断で必要な情報を提供できる場合は延期、中止する。

### 2. 感染予防と対策

- COVID-19 感染の疑いが少ない患者の検査においても、経胸壁心エコー図検査では標準的感染予防策を、経食道心エコー図検査では飛沫感染予防策を講じる(表1、図1参照)。
- COVID-19 感染の疑いが少ない患者の検査においても、検査室の環境および超音波診断装置について感染予防対策を講じる。
- COVID-19 陽性例、あるいは強く疑われる例では、医学的に検査が必要と判断された場合のみ、専用の個室や病室等で検査を行う。また、N95 マスクを含めた空気感染予防対策を講じる(表1、図1参照)。
- COVID-19 陽性例、あるいは強く疑われる例では、超音波診断装置について十分な感染予防対策をし、また検査後は感染拡大を予防する対策を講じる。
- COVID-19 感染の疑いがある、または陽性患者では、検査内容の省略化や POCUS で検査するなど検査時間を短くする。

付録

図1 PPE 方法の選択に関するアルゴリズム

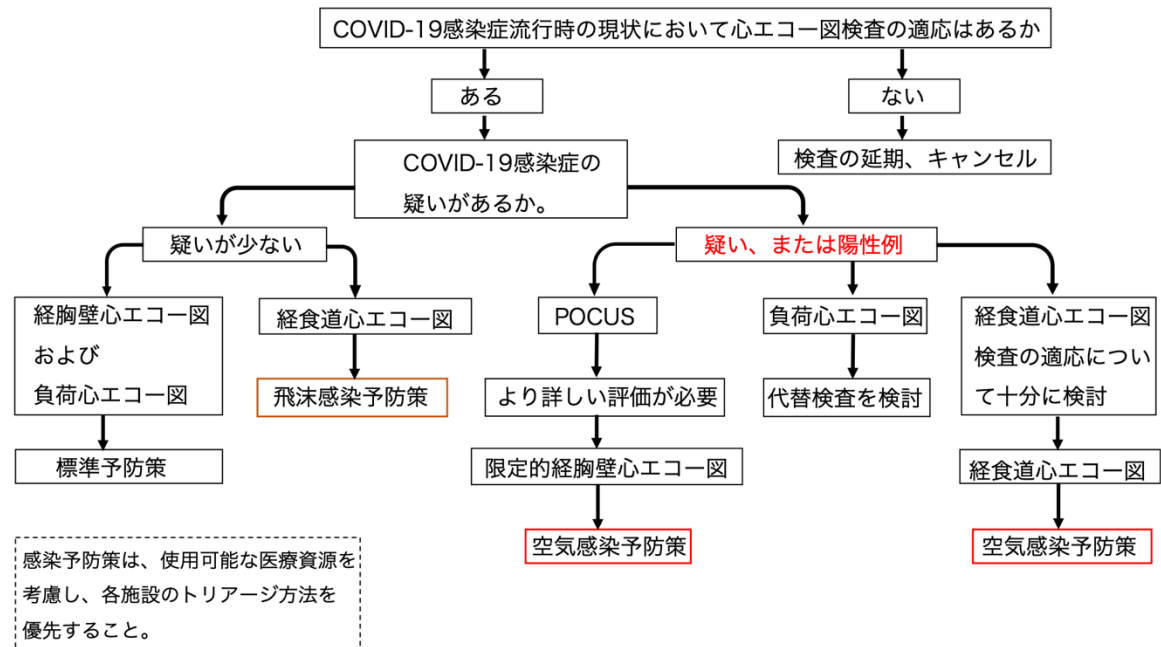


表1 感染予防のタイプとPPE

	手指衛生	手袋	ガウン	サージカルマスク	N-95/N-99マスク	フェイスシールド	サージカルキャップ	シューズカバー
標準的予防策	○	○*		○				
飛沫感染予防策	○	○	○	○**	○**	○	○	○
空気感染予防策	○	○	○		○	○	○	○

\*手袋の資源保護のため、感染リスクが非常に低い患者などでは、検査前後の十分な手指衛生でも可能

\*\*N-95/N-99マスクの資源保護のため、サージカルマスクで代用可能